

くまもと農業・最適化推進運動に係るモデル地区の取組み

農委会名： 菊陽町農業委員会

1 地域の概要

当町は、熊本市の北東部に位置し、恵まれた土壌と整備された農地を活用して、多彩な農産物が生産されている。その中でも国の産地指定を受けているニンジンが特産であり、その生産量は県内1位となっている。

経営規模を拡大し他産業並みの所得をあげている優れた農業経営者も多く育てており、農業後継者となる若者の就農もみられる。

その一方で、TSMCの進出に伴う半導体関連企業や住宅等の開発が進んでおり、農業振興と企業進出の両立に向けた取組みが急務となっている。

2 農業委員会の体制

- (1) 農業委員数 9名（うち、認定5人、女性2人）
- (2) 推進委員数 9名（うち、認定5人、女性0人）
- (3) 事務局体制 3名（うち、専任2人、兼任1人）

3 掲げた目標

- ・モデル地区の取組みによる農地集約率の向上事例づくり

【地区の概要】

地区名：原水上鉄砲小路地区

地区内の農地面積：6.7ha

モデル地区を担当する農業委員数及び推進委員数

農業委員数：1人、推進委員数：2人

4 目標達成に向けた取組み（運動）の内容

農地の賃貸借権（利用権設定）の借手の交換による農地集約率の向上

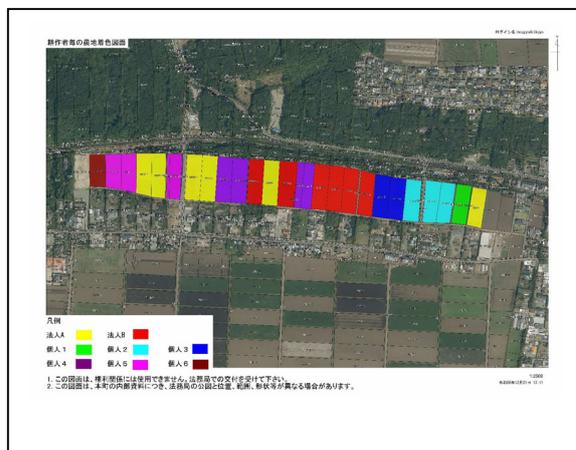


図1 現況地図

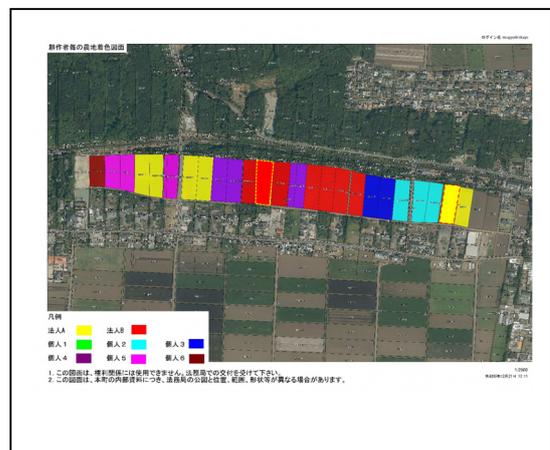


図2 交換後の状況

5 取組みの成果

- (1) 地元農業委員を中心に、耕作者や地権者に対し、耕作農地の交換を協議
- (2) 4戸の農業者が賛同し、農地集約に向けた協議を実施
- (3) 集約農地は17筆→22筆に、集約率として65.3%→84.6%に向上する予定。
- (4) 今後の利用権設定について、中間管理機構を通すのか協議する予定

6 課題と今後の方針等

- (1) 中間管理機構を活用するとはいつでも、誰でもよいから貸すということは困難
- (2) 農地の日照時間や水路の有無など、耕作条件が異なるため交換不可の農地有
- (3) 6(2)のような課題をどのように解決するか、自治体を含めた協議が必要